

教育研究の広場

本学は、平成13年6月22日に「琉球大学環境宣言」を行い、本学の存在基盤を地球のエコロジーという観点から再構築し、新たな精神、教育研究、社会貢献の在りようを求め行動を開始した。平成13年度は行動計画実施の初年度でもあり、学内外にエコロジカル・キャンパスについての認知を得ることが最大の課題で、エコロジカル・キャンパス推進委員会では、今後の活動の方向性を探ることを中心として事業計画を立案し実施した。

このたび、これらの実施事業が報告書として取りまとめられ、平成14年8月19日にエコロジカル・キャンパス推進委員会において了承されるとともに、同委員会委員長により学長に報告された。ここの「平成13年度琉球大学エコロジカル・キャンパス推進委員会事業実施報告書」から、平成13年度実施事業の目玉となった「エコロジカル・キャンパス意識調査」の結果を抜粋して、ここに紹介する。

この調査は、学生及び教職員を対象としてアンケート形式で実施され、そこには、数々の環境を巡る本学の現状が浮き彫りにされており、興味深い。特に、環境教育の充実及び大学景観の美化が求められていることが調査結果において明確に示されており、今後は重点的にこれらの充実に向けて活動する予定である。

なお、本委員会の活動については、以下のサイトにより公開されており、それぞれのエコロジカル・キャンパス活動の実践に向けて活用して頂きたい。

○エコロジカル・キャンパス推進委員会のサイト <http://www.ecam.osn.u-ryukyu.ac.jp/>

琉球大学エコロジカル・キャンパス推進委員会
委員長 山里勝己

[次へ](#)

[学報トップ](#)

教育研究の広場

本学における環境意識調査

－エコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果より－

1. 意識調査の概要

エコロジカル・キャンパス意識調査は、「琉球大学環境憲章」にうたわれた理念と行動計画を具体的に実践するため、本大学の現状を把握することを目的として実施した。

アンケート調査は、2001年11月から2002年1月の期間に、教員、事務職員、学生を対象として行った。アンケート調査票の有効回収数は、配布総数1,895件（うち教員855件、事務職員170件、学生870件）に対し、868件であり、有効回収率は45.8%（教員25.8%、事務職員79.4%、学生51.5%）となっている。

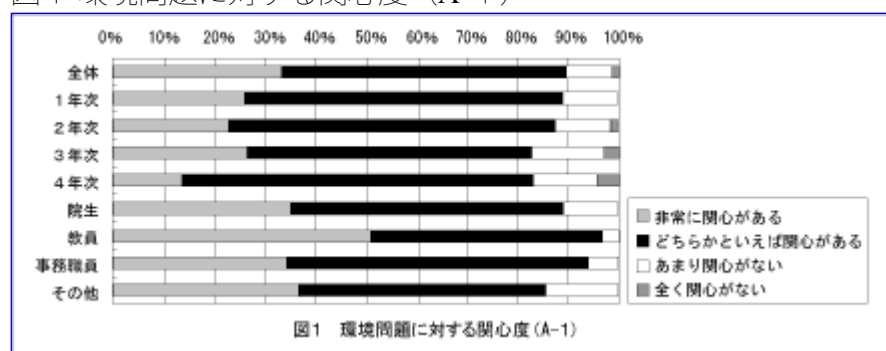
アンケート調査の項目は、A.環境問題全般について、B.琉大キャンパスの歴史や自然環境、景観について、C.キャンパス内のゴミ問題とリサイクルについて、D.キャンパス内のゴミ問題・リサイクルについて、あながたできること、E.キャンパスの環境美化について、F.キャンパス内の交通問題について、G.不法投棄されている車輛や家電製品等について、H.環境教育について、I.本学を「エコロジカル・キャンパス」にするための提案について、の9項目について設問を設けた。

2. 調査結果

A. 環境問題全般について

環境問題に対する関心度は（設問A-1）、「どちらかといえば関心がある」が56.5%と半数以上を占め、次いで「非常に関心がある」が33.1%となっている。これを属性別で見ると、学生や事務職員に対して、教員の半数以上（50.9%）は「非常に関心がある」と答えており、環境問題に対する関心の高さが伺える。

図1 環境問題に対する関心度（A-1）



琉球大学のキャンパスの快適度については（設問A-2）、「どちらかといえば快適である」の割合が60.5%と高く、一方で「あまり快適でない」と回答した割合も3割（30.5%）を超えている状況にある。属性別にみると、学部学生、教員、事務職員は全体の結果と比較的同様傾向にあるが、大学院生は、「あまり快適でない」と回答した割合が45.9%と高い。

「琉球大学環境憲章」に関する認知度については（設問A-3）、「知らない」と答えた割合が全体で6割以上（64.7%）を占めており、「琉球大学環境憲章」が十分認知されていないことが伺える。とりわけ、学生においては、「知らない」と答えた割合が8割以上（81.1～88.9%）を占めており、一層の啓発が求められる。

図2 「琉球大学環境憲章」について（A-3）

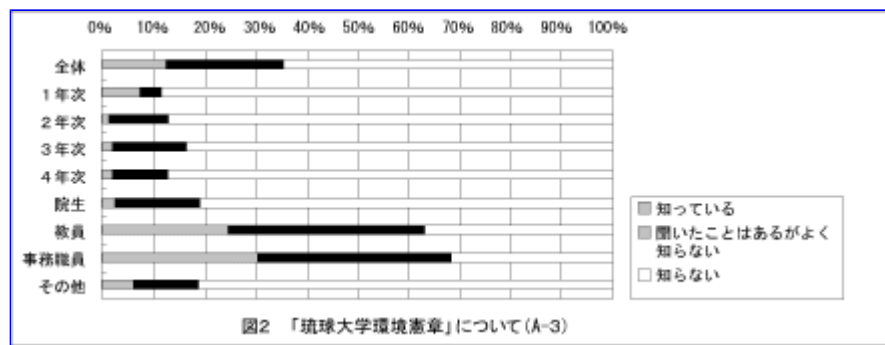


図2 「琉球大学環境憲章」について (A-3)

[戻る 次へ](#)

[学報トップ](#)

教育研究の広場

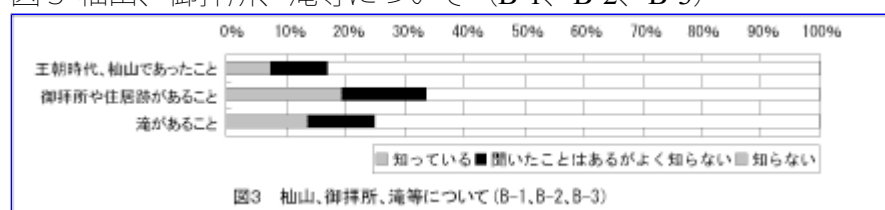
本学における環境意識調査

ーエコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果よりー

B. 琉大キャンパスの歴史や自然環境、景観について

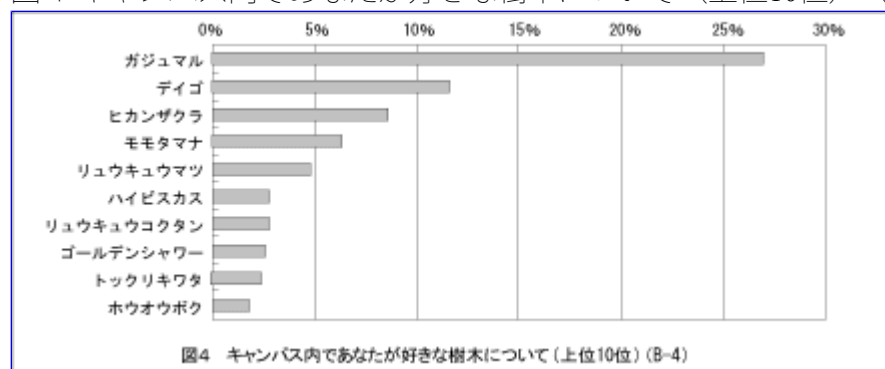
本キャンパスが王朝時代、杣山であったことに対する認知度は（設問B-1）、「知らない」と回答した人が全体で8割以上（83.1%）を占めている。また、キャンパス内にある御拝所や住居跡についても（設問B-2）、「知らない」と回答した人が6割以上（66.2%）を占めており、とりわけ学生における認知度が16.2～29.7%と低い。「知っている」または「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した人の合計が半数以上を占めたのは、事務職員（69.6%）のみであった。キャンパス内にある滝についても（設問B-3）、「知らない」と回答した人が75.2%と最も高く、学生や教員でその割合が高くなっている（各76.6～91.9%、77.8%）。御拝所や住居跡の認知度と同様に、「知っている」または「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した人の合計が半数以上を占めたのは、事務職員（55.5%）のみである。

図3 杣山、御拝所、滝等について（B-1、B-2、B-3）



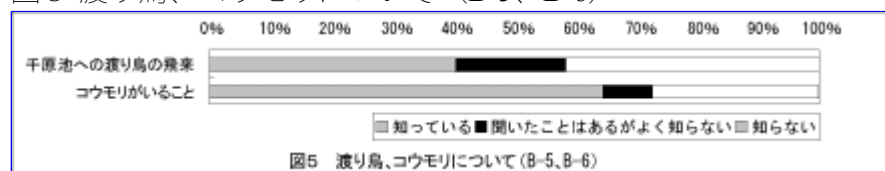
キャンパス内の好きな樹木で最も多かったものは（設問B-4）、「ガジュマル」（27.0%）であり、キャンパス内のゲートやループ道路及び遊歩道に多く植栽され、緑陰を大きく創出するガジュマルが高く評価されていることがわかる。ガジュマル以外には「デイゴ」（11.6%）、「ヒカンザクラ（カンヒザクラ）」（8.5%）、「モモタマナ（コバテイシ）」（6.3%）、「リュウキュウマツ」（4.7%）などが好きな樹木として挙げられている。

図4 キャンパス内であなたが好きな樹木について（上位10位）（B-4）



千原池への渡り鳥の飛来については（設問B-5）、「知らない」（41.7%）と「知っている」（40.6%）がほぼ同数となっている。属性別にみると、教員及び事務職員では「知っている」人の割合が高く（各50.9%、56.0%）、学生は「知らない」と回答した人の割合が高い（42.1～59.3%）。一方、コウモリがいることについては（設問B-6）、全体で64.7%の人が「知っている」と回答しており、歴史や自然環境等に関する認知度の設問で唯一半数以上を占めている。属性別にみると、学生の認知度（62.1～89.2%）が教員及び事務職員の認知度（各61.2%、60.0%）を上回っている。

図5 渡り鳥、コウモリについて（B-5、B-6）



キャンパス内で、きれいで誇れる場所としては（設問B-7）、「千原池及びその周辺」（37.1%）が最も高い

評価を受け、次いで「図書館及びその周辺」(11.4%)、「法文学部棟及びその周辺」(8.9%)、「プロムナード」(6.3%)、「首里の杜」(5.1%)などの場所が挙げられている。

汚くて恥ずかしいと思う場所については(設問B-8)、「駐車場及び駐輪場」(12.7%)が最も高く、とりわけ放置車両に対する意見が目立つ。次いで多かった場所は、きれいで誇れる場所として最も評価を受けた「千原池及びその周辺」(9.4%)であり、池の水質やがけ崩れへの対応が挙げられている。その他には、「トイレ」(9.4%)や「教室及び廊下」(6.2%)の屋内環境、「学生寮及びその周辺」(5.7%)などが挙げられており、指摘された場所については、その改善が求められる。

図6 キャンパス内で、きれいで誇れると思う場所について(上位10位)(B-7)

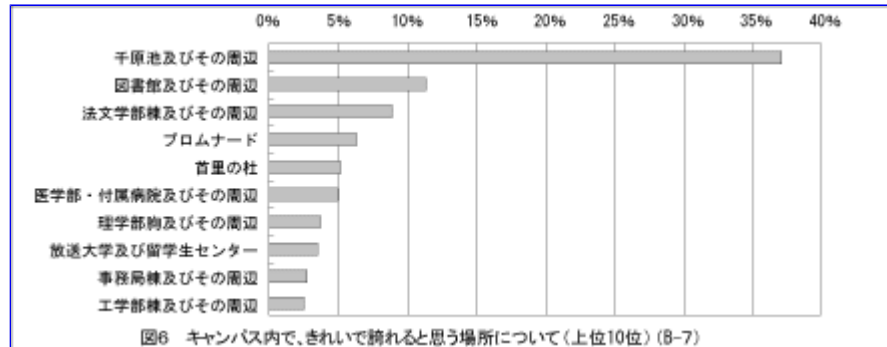


図6 キャンパス内で、きれいで誇れると思う場所について(上位10位)(B-7)

図7 キャンパス内で、汚くて恥ずかしいと思う場所について(上位10位)(B-8)

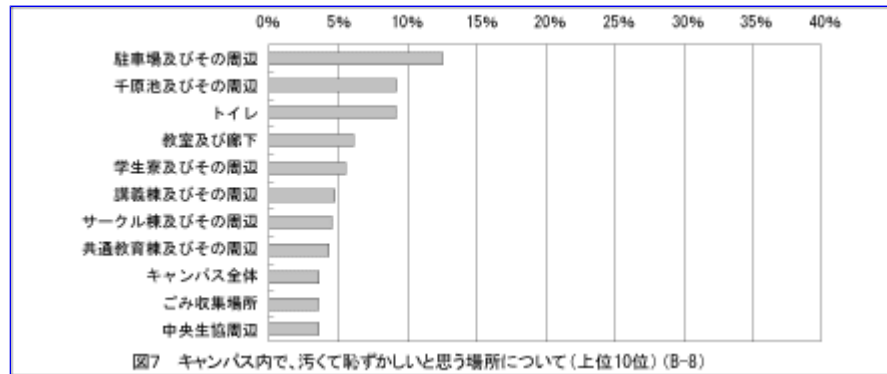


図7 キャンパス内で、汚くて恥ずかしいと思う場所について(上位10位)(B-8)

キャンパスのシンボルとして最もふさわしい場所は(設問B-9)、キャンパス内で最もきれいで誇れる場所として挙げられた「千原池の自然」(24.0%)が高い評価を受けている。その内容をみると、シンボル空間としての整備の必要性和自然緑地としての保全の必要性の意見があり、慎重な対応が求められる。次いで高い評価を受けたものは、「憩いの場所の設置」(12.1%)、「森林スペース」(10.9%)、「緑化及び並木道の整備」(9.9%)が挙げられている。また、シンボルは「不要」(9.9%)と回答している人も約1割おり、新たなシンボルの整備に際しては、自然環境への配慮が特に求められる。

図8 キャンパスのシンボルとしてふさわしいものについて(上位10位)(B-9)

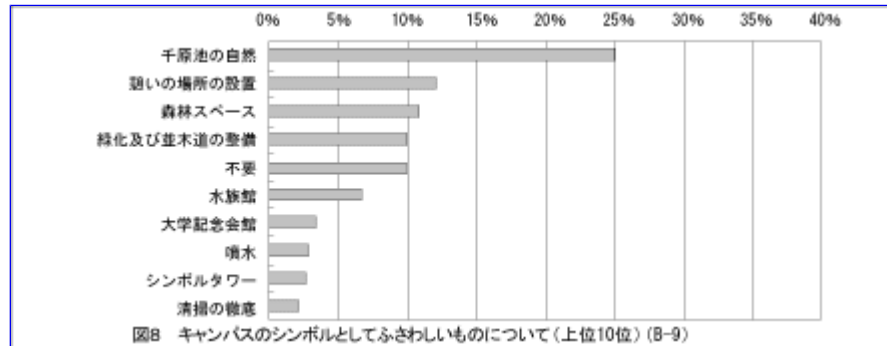


図8 キャンパスのシンボルとしてふさわしいものについて(上位10位)(B-9)

[戻る 次へ](#)

[学報トップ](#)

教育研究の広場

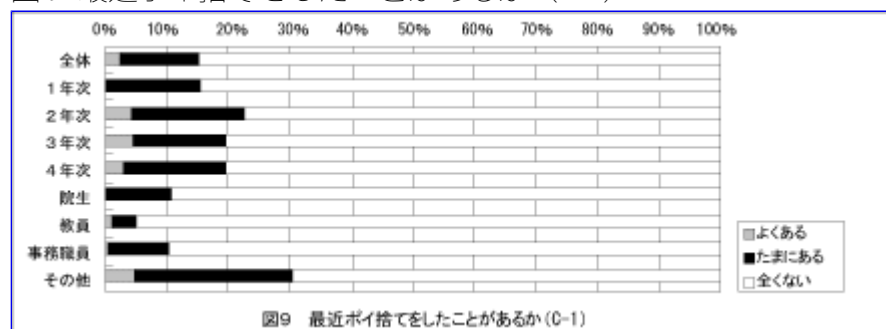
本学における環境意識調査

ーエコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果よりー

C. キャンパス内のゴミ問題とリサイクルについて

最近、ポイ捨てをしたことがあるかについては（設問C-1）、全体で**84.8%**の人が「全くない」と回答しているが、一部には「たまにある」（12.5%）、「よくある」（2.7%）という人もみられる。属性別にみると、ポイ捨て経験のある割合が高いのは学部学生（15.4~22.5%）で約2割を占めている。

図9 最近ポイ捨てをしたことがあるか（C-1）



ポイ捨て禁止ポスターの掲示など、意識啓発の必要性については（設問C-2）、「どちらかといえば思う」（34.1%）、「非常に思う」（29.7%）をあわせた6割以上の人が必要だと回答している。「あまり思わない」（28.2%）とする人も3割弱いる。属性別にみると、教員及び事務職員は「非常に思う」と回答した割合が高く、学生は「どちらかといえば思う」という回答が多い。

キャンパス内にゴミ箱を多く設置することについては（設問C-3）、「非常に思う」（40.3%）と回答した人が最も多く、「どちらかといえば思う」（32.2%）を合わせると7割以上の人が必要を示している。属性別にみると、学部学生は「非常に思う」（42.3~47.4%）、大学院生は「あまり思わない」（37.8%）、そして教員及び事務職員は「どちらかといえば思う」（各35.2%、33.8%）の割合が高く、ゴミ箱の設置に対する認識の差がみられる。

図10 ポイ捨て禁止ポスターの掲示等の意識啓発を行う必要があると思うか（C-2）

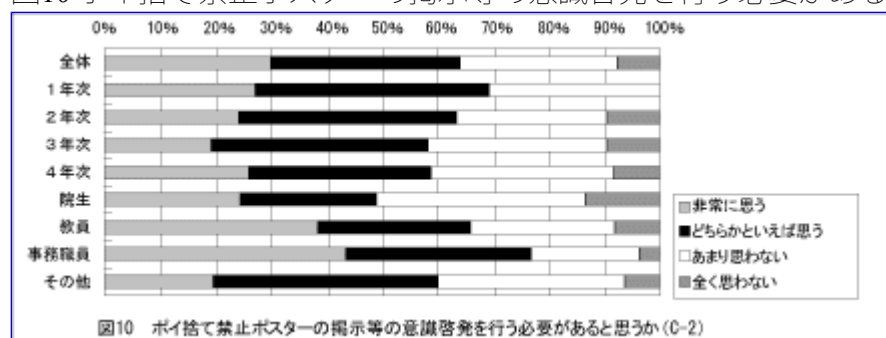
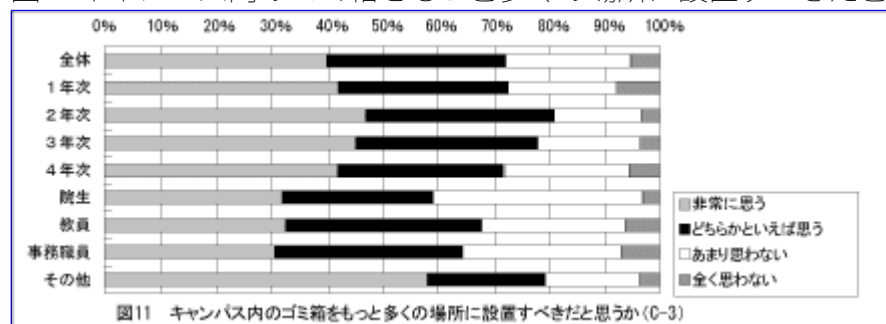


図11 キャンパス内のゴミ箱をもっと多くの場所に設置すべきだと思うか（C-3）



キャンパス内におけるリサイクルの推進については（設問C-4）、「非常に思う」（46.7%）と回答した人が最も多く、「どちらかといえば思う」（43.2%）と合わせると約9割の人がその必要性を示しており、その

推進が求められる。

図12 キャンパス内のリサイクルをもっと進めるべきだと思うか (C-4)

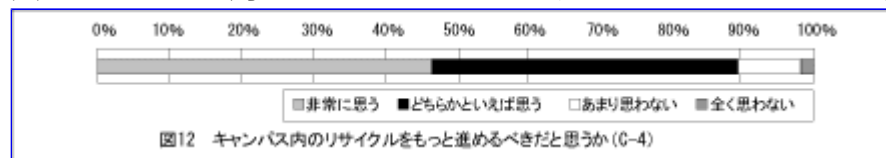


図12 キャンパス内のリサイクルをもっと進めるべきだと思うか (C-4)

[戻る 次へ](#)

[学報トップ](#)

● 教育研究の広場 ●

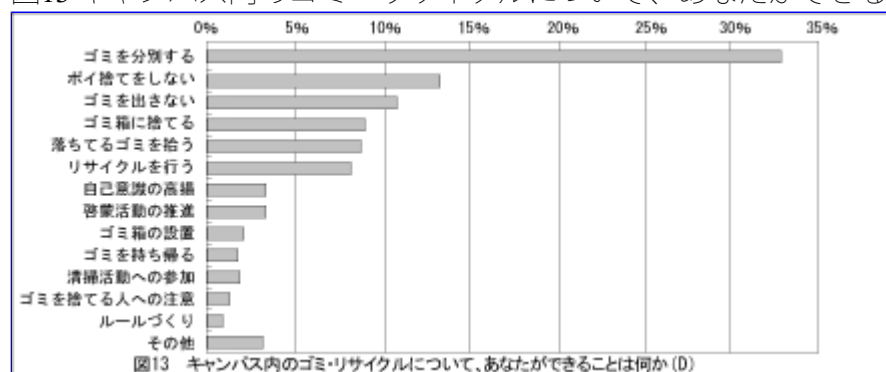
本学における環境意識調査

－エコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果より－

D. キャンパス内のゴミ問題・リサイクルについて

キャンパス内のゴミ問題・リサイクルについて、回答者自身が取り組むことが可能なものとして挙げられた内容は全体で515件を数えた。その内容を大別すると（記述式）、最も回答が多かった内容は「ゴミの分別の徹底」（32.8%）であった。以下、「ポイ捨てをしない」（13.4%）、「ゴミを出さない」（10.9%）、「ゴミ箱に捨てる」（8.9%）、「目に付いたゴミを拾う」（8.7%）、「リサイクルを行う」（8.2%）、「自己意識の高揚」、「啓蒙活動の推進」（各3.3%）、「ゴミ箱の設置」（1.9%）、「ゴミを持ち帰る」、「清掃活動への参加」（各1.7%）など多岐にわたる内容が挙げられている。

図13 キャンパス内のゴミ・リサイクルについて、あなたができることは何か（D）

[戻る 次へ](#)[学報トップ](#)

教育研究の広場

本学における環境意識調査

－エコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果より－

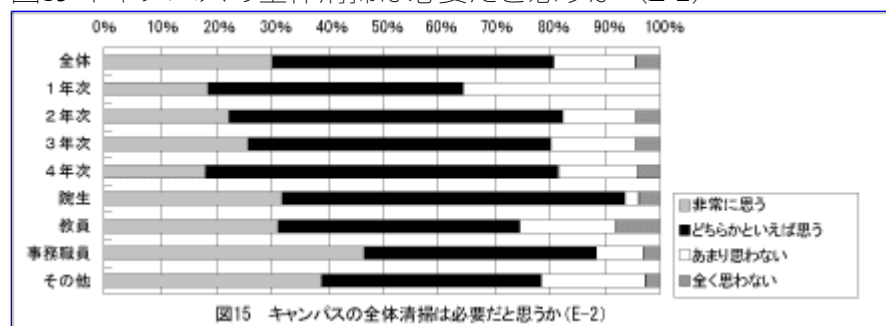
E. キャンパスの環境美化について

キャンパスの全体清掃への参加経験については（設問E-1）、「ない」と回答した人が**63.3%**を占め、「ある」の**36.7%**を大きく上回っている。属性別にみると、事務職員の参加率が**89.6%**と最も高く、教員の参加率は**57.1%**に止まっている。さらに、学生の参加率は1年次**3.8%**、2年次**5.3%**、3年次**14.4%**、4年次**23.7%**、大学院生**24.3%**と、高学年ほど参加率も高くなっているが、それでも3割を大きく下回っている。一方、キャンパスの全体清掃の必要性については（設問E-2）、「どちらかといえば思う」（**50.9%**）、「非常に思う」（**30.5%**）をあわせた8割以上の人がその必要性を認識しており、実際の全体清掃への参加率との間に大きな隔たりがみられる。尚、全体清掃の必要性について「非常に思う」と回答した人の属性をみると、最も高かったのは事務職員（**47.4%**）で、次いで院生（**32.4%**）、教員（**31.6%**）となっている。

図14 キャンパス全体清掃に参加したことがあるか（E-1）



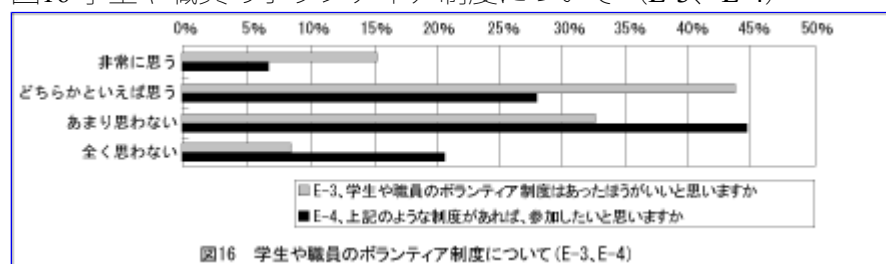
図15 キャンパスの全体清掃は必要だと思うか（E-2）



キャンパス内環境の監視やチェックをする学生や職員のボランティア制度の必要性については（設問E-3）、「どちらかといえば思う」（**43.7%**）と回答した人が最も多く、次いで「あまり思わない」（**32.6%**）、「非常に思う」（**15.4%**）、「全く思わない」（**8.4%**）となっている。しかし、こうした制度

への参加の意思については（設問E-4）、「あまり思わない」（**44.7%**）と回答した人が多く、次いで「どちらかといえば思う」（**28.0%**）、「全く思わない」（**20.7%**）と続いている。「非常に思う」と回答した人の割合は**6.7%**に止まっている。回答者は、制度の必要性は認識しながらも、自らの参加については消極的であることが伺える。

図16 学生や職員のボランティア制度について（E-3、E-4）



その他、環境美化の推進に関する具体的な提案を記述してもらったところ（設問E-5）、**191**件の提案があつ

た。その内容を大別すると、「清掃活動の推進」、「意識改革と啓蒙活動の推進」（各12.6%）、「ゴミ箱の設置」（11.0%）、「清掃業者への委託」（8.4%）、「緑化の推進」（7.3%）、「ゴミの減量化」（5.8%）、「駐車場に関する問題の改善」、「ボランティア活動の推進」、「環境教育に関する授業の開講」、「禁煙または分煙の実施」（各5.2%）など、多岐にわたる提案が挙げられている。

図17 環境美化の推進についての具体的な提案内容

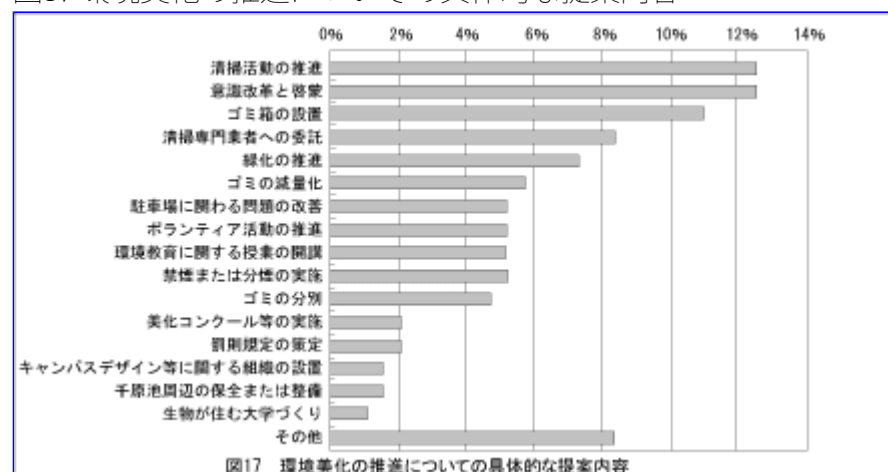


図17 環境美化の推進についての具体的な提案内容

[戻る 次へ](#)

[学報トップ](#)

教育研究の広場

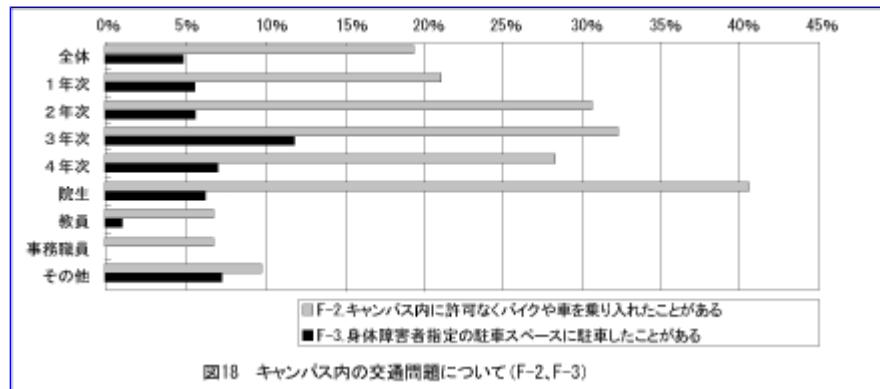
本学における環境意識調査

－エコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果より－

F. キャンパス内の交通問題について

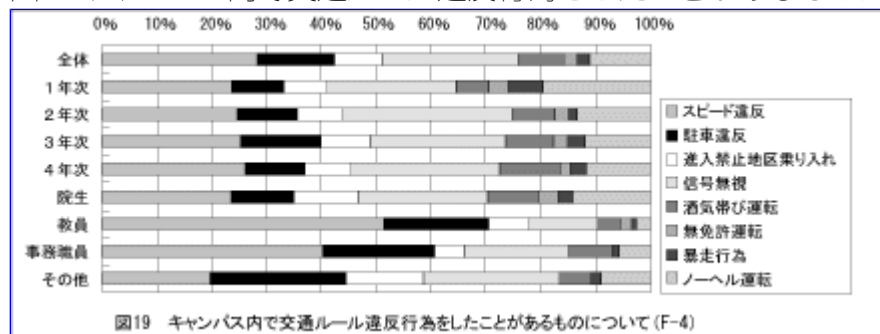
通学または通勤の交通手段については（設問F-1）、83.0%の人が車やバイクを使用している状況にある。車やバイクを利用している人の中で、キャンパス内に許可なくバイクや車を乗り入れた経験については（設問F-2）、約2割の人が「ある」（19.4%）と回答している。特に、学生の乗り入れ経験の割合は、21.1～40.6%と教員（6.8%）や事務職員（6.7%）と比較して高い。また、身体障害者ではないにもかかわらず身体障害者指定の駐車スペースへの駐車についても（設問F-3）、「ある」と回答した人の割合が4.9%もあり、交通ルールの遵守が求められる。

図18 キャンパス内の交通問題について（F-2、F-3）



キャンパス内での交通ルールの違反行為については（設問F-4）、「スピード違反」（28.4%）、「信号無視」（24.8%）が目立ち、また、「駐車違反」（14.1%）、「ノーヘル運転」（11.1%）、「進入禁止区域への乗り入れ」（8.8%）、「酒気帯び運転」（8.2%）、「無免許運転」（2.4%）、「暴走行為」（2.2%）もみられる。違反行為のなかには重大事故につながる行為もみられ、交通ルールの遵守に対する啓発が一層求められよう。

図19 キャンパス内で交通ルール違反行為をしたことがあるものについて（F-4）



[戻る 次へ](#)

[学報トップ](#)

● 教育研究の広場 ●

本学における環境意識調査

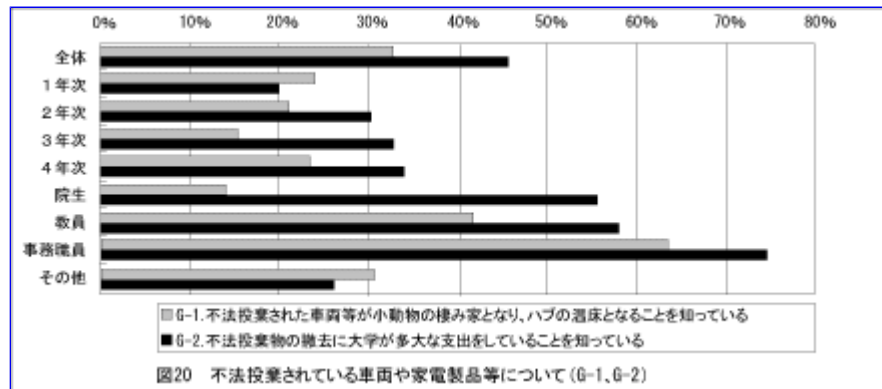
ーエコロジカル・キャンパス意識調査アンケート結果よりー

G. 不法投棄されている車両や家電製品等について

不法投棄された車両等が小動物のすみかとなり、それらを餌とするハブの温床になっていることについては（設問G-1）、「知らない」（67.3%）と回答した人が多い。特に、学生の認知度（13.9～24.0%）が低く、教員も41.6%に止まっている。

不法投棄された車両や家電製品等の撤去に大学が多大な支出を行っていることに対する認知度については（設問G-2）、事務職員（74.4%）、教員（58.0%）、大学院生（55.6%）で半数以上を占めているが、学部学生は20.0～34.0%と低い。

図20 不法投棄されている車両や家電製品等について（G-1、G-2）



H. 環境教育について

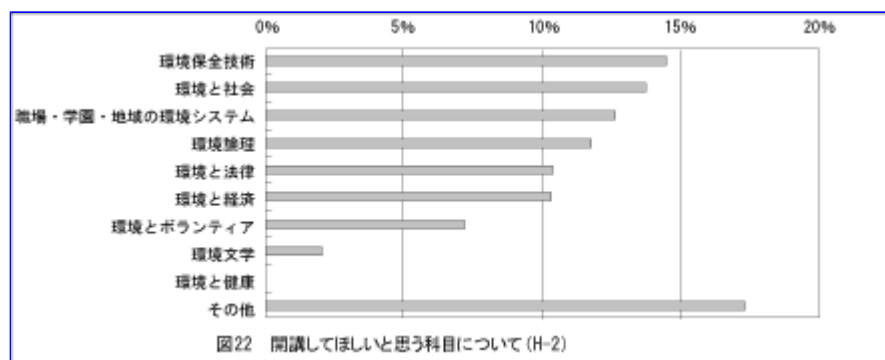
環境に関する科目の開講について（設問H-1）、もっと開講してほしいと「思う」と回答した人の割合は全体で68.6%を占めており、環境教育への関心の高さが伺える。学生の意識を学年別にみると、1年次（47.8%）、2年次（64.9%）、3年次（64.4%）、4年次（67.7%）、大学院生（66.7%）と高学年ほど環境教育科目の開講に対する要望が高いことがわかる。

図21 環境に関する科目をもっと開講してほしいと思うか（H-1）



開講してほしい具体的な科目については（設問H-2）、「環境保全技術」（14.4%）に対する関心が高く、「環境と社会」（13.8%）、「職場・学園・地域の環境システム」（12.6%）、「環境倫理」（11.8%）、「環境と法律」（10.4%）、「環境と経済」（10.3%）、「環境とボランティア」（7.2%）などと続いている。

図22 開講してほしいと思う科目について（H-2）



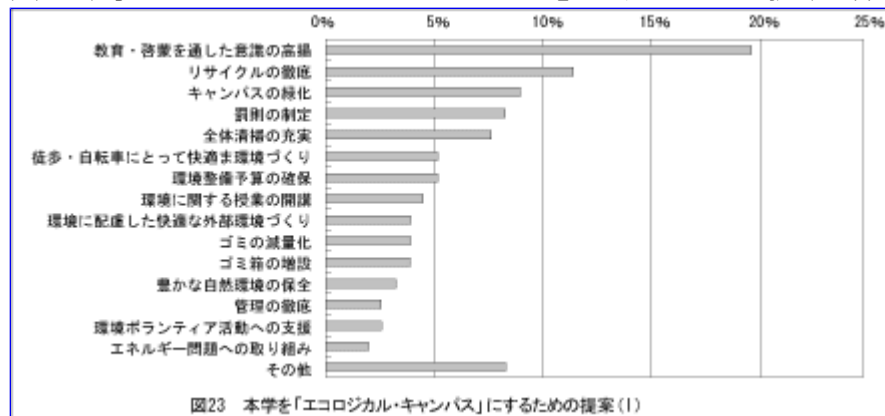
上記以外の科目としては、「学生の討議の授業」、「環境と観光」、「ゴミ問題」、「環境と国際関係」、「環境教育者になるための科目」、「環境と教育」、「ドイツ人の環境意識」、「環境と人間」、「環境美化実習科目」、「環境と生態」、「環境教育に関する自然科目」、「自然史科学」、「環境デザイン」、「環境問題の改善としくみ」、「環境と生物」、「環境と人権」が挙げられている。

図22 開講してほしいと思う科目について (H-2)

1. 本学を「エコロジカル・キャンパス」にするための提案について

本学を「エコロジカル・キャンパス」にするための提案については（記述式）、158件の具体的な提案があった。その提案を大別すると、「教育・啓蒙を通じた意識の高揚」（19.6%）に関する提案が最も多い。以下、「リサイクルの徹底」（11.4%）、「キャンパスの緑化」（8.9%）、「罰則の制定」（8.2%）、「全体清掃の充実」（7.6%）、「徒歩・自転車にとって快適な環境づくり」、「環境整備予算の確保」（各5.1%）、「環境教育に関する授業の開講」（4.4%）、「環境に配慮した外部環境づくり」、「ゴミの減量化」、「ゴミ箱の増設」（各3.8%）などが提案されている。

図23 本学を「エコロジカル・キャンパス」にするための提案 (I)



[戻る](#)

[学報トップ](#)